

・ こけ楽効果をより持続するための方法 ・

① 下処理



水槽の汚れを定規やスクレーパー、固めのスポンジ等で汚れを取り去ります。

新品の水槽でも油膜が残っていると十分にコーティングできないことがありますので、**マイクロファイバークロス**や不織布、市販の油膜落とし（水槽に傷がつかず薬剤ではないタイプ）でしっかりと除去します。

② コーティング



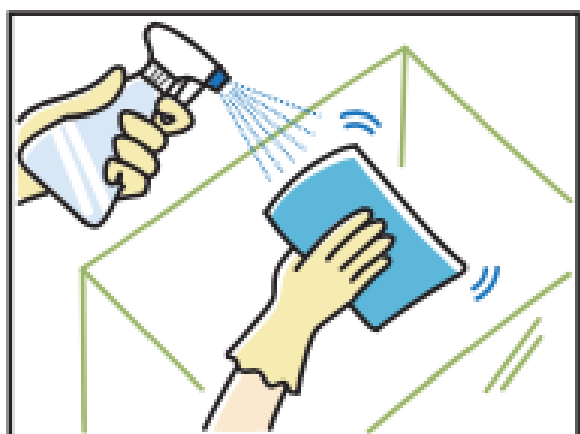
50mgで縦横約20cmコーティングできます

眼鏡拭き等の**マイクロファイバークロス**や**専用パッド**に**こけ楽**を少々付け、霧吹き等で少し濡らしながら、少し圧をかけながら擦り込みます。

ヒーターやポンプ、エアチューブにも使用できます。

アクリル水槽、プラスチック水槽で傷がつくような場合は柔らかめのスポンジをご使用ください。

良く濡らしたクロスで**ムラ**を**拭き取り**出来上がり。



親水性を確かめてから水で余剰分をふき取る

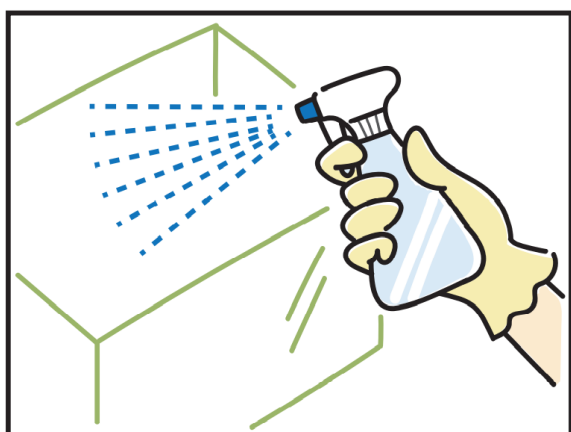
③ メンテナンス



綿状のコケが少し見えたとき、水替え時、リセット時等には柔らかいスポンジやマグネットタイプのクリーナーで取り去って下さい。

コーティングが充分でない部分を見つけた場合はその場所だけ下地の再処理 / 再塗布をしましょう。

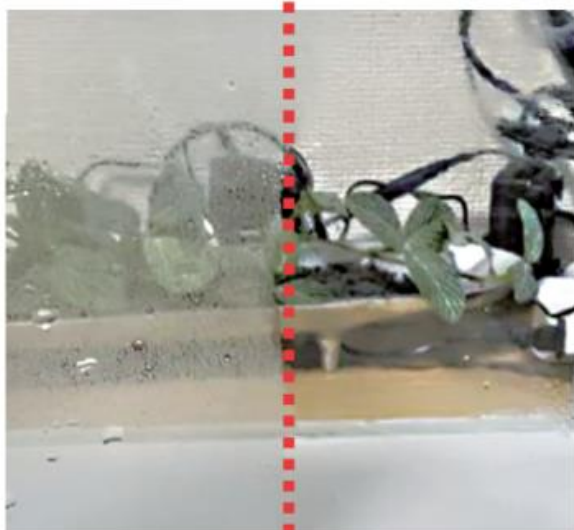
コーティングのチェック



コーティングがうまくいったかどうかをチェックする方法です。

コーティング後スプレーボトルで水を吹きかけます。うまくコーティングできると水を弾かず、表面にサツと広がります（**親水状態**）。

水をはじいて水玉ができてしまう場合（**撥水状態**）は下地処理を行い、もう一度上塗りすれば親水状態に変わります。



◀ 撥水状態 親水状態 ▶

紙・布・生木など、水が浸み込むものにはコーティングできません

☑ こけ楽したのにコケが生えてきた？ というときのチェックポイント

1. 水流不足・フィルター詰まりではないですか？

コケが繁殖する条件がそろっている水槽では飽和してこけ楽の効果を上回ってしまうこともあります
そういう場合水槽面に水流が無い場合はふわりとコケが乗ったまま堆積されることが考えられます
フィルターの物理濾過のメメな交換によるコケの飽和を抑えるか水流の確保を行ってください

2. 下処理不足

新品の水槽でも目に見えない汚れが付着している可能性があります
本説明書の最初の「1. 下処理」を参考にしてください

3. 塗布漏れ

親水性チェックが充分でないと塗布漏れを発見できていないことがあります
本説明書では親水性チェックのタイミングを詳しく記載しましたのでご参考下さい



4. 施工にスポンジ等の染み込みやすいものを使用した

こけ楽の成分の本体はジェルの中に含まれたシリカです
ジェルを塗ったつもりでもシリカが直接しっかり水槽面に擦り込まれないと
コーティングできません
眼鏡拭きの様な毛先の短いマイクロファイバークロスが理想です

5. 施工圧の不足

慣れるまではどのくらい力をいれればいいのかわからないかもしれませんが、
親水性チェックをしながらその加減をマスターしてください
コーティングに慣れた方はポリッシャー・ルーター等
使用されてもかまいませんが、ガラスの焼き付け等や
水槽の水漏れ原因にならないように充分気をつけてください



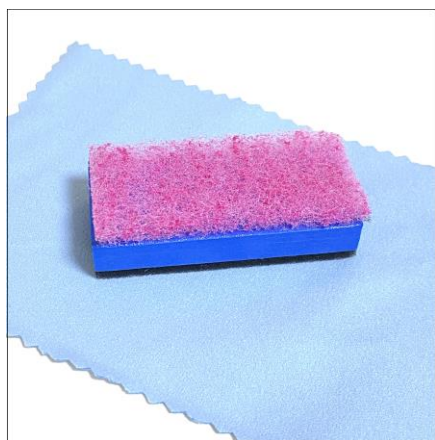
**※ 水槽のコケ・汚れは多種多様、
それぞれ違った条件下で発生しますので
上記で考えられないケースもあることをご了承下さい**

注意事項

1. 水槽にコーティングする際は接合部のシリコン部分には強い力や摩擦を与えないようにしてください。シリコン部はスポンジ等で塗布してください。
2. こけ楽使用後、特に長期間使用の予定のない場合はしっかりとフタを閉め、できればビニールテープでさらに封止する等して保管してください。水分が飛ばなければ変質はしません。
3. 特殊な加工がされていたりシートの貼られた水槽にはこけ楽の施工を避けて下さい。
4. アクリル水槽・プラスチック水槽は傷がつかないかどうか目立たないところで一度チェックしてください。
5. 回転工具（専用バフ装着）を使用すると施工難易度の高い水槽でもさらに効率よく施工可能ですが、水槽を破損しないように気を付けて操作してください。

こけ楽コーティング専用パッド

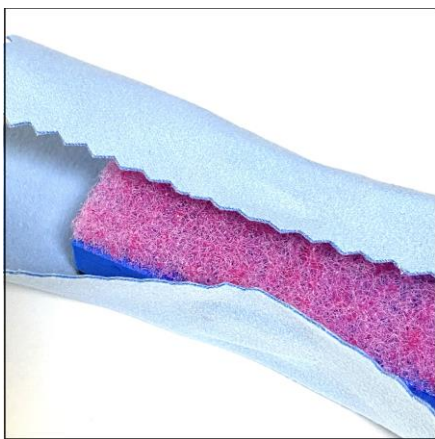
別売の専用パッドを使用すると、コーティングが楽になるだけでなく、特にガラス水槽の鏡面加工が施してあるタイプはコーティング密着度が高まり、効果が長期間持続するようになります。



【使用方法】

1, ガラス水槽の場合

赤いスポンジ面にこけ楽を少量とり、少し水に濡らした状態で多少圧をかけこする様にガラス面に塗布します。



2, アクリル水槽の場合

貼付のマイクロファイバークロスをパッドに巻き付け、少し濡らしてアクリル面に刷り込みます。

3, プラスチック水槽の場合

黒いスポンジ面でこするよう塗布します。傷がつかないようであればマイクロファイバークロスをご使用ください。



パッドは使用后すぐに水洗いして下さい。